

学校法人 コミュニケーションアート 東京デザインテクノロジーセンター専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

令和4年度自己点検・評価表(令和4年4月1日～令和5年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
1 教育理念・目的・育人画像	1-1 理念・目的・育人画像は定められているか	3	学校法人コミュニケーションアート 東京デザインテクノロジーセンター専門学校(TECH.C.)は、滋慶学園グループに属し、「職業人教育を通して社会に貢献する」ことをミッション(使命)としている。	滋慶学園グループの理念、コンセプトは学校に関わるスタッフ全員に浸透しており学校運営にあたっている。	3	・実学教育を産学連携で行うというところがはっきりしており、企業プロジェクトをしっかり確保出来ているところが素晴らしい。 ・企業プロジェクトはイノベティブになるためのプロセスであり、「創造力」はさらにその先にあるものである。それを学生が理解しやすいように伝える必要あり。
	1-2 学校の特色は何か	3	「3つの教育理念」(「実学教育」「人間教育」「国際教育」)を実践し「4つの信頼」(①学生・保護者からの信頼 ②高等学校からの信頼 ③業界からの信頼 ④地域からの信頼)を得られる学校を目指している。	産学連携教育をコンセプトに、企業プロジェクトをはじめとした実践教育を実施。またデザインとテクノロジーを両方学べるという学校の特長を活かした教育内容が充実している。英語力、テクノロジー、マネジメントを身に付け、業界でリーダーシップを発揮できる人材育成を行っている。	2	・特色がもっとはっきり分かるように、可視化することを求める。 ・実学の目標達成値が定量化出来ているか、プロセスをどの様に見せていくかは要検討。 ・アンケート調査の結果を、数値化して可視化すると説得力があると思う。
	1-3 学校の将来構想を抱いているか	3	プロとして必要な知識力・技術力と合わせ、ホスピタリティマインド、コミュニケーション力、チームワークなどこれからの業界に求められる人材を育成し輩出している。また、“TECH.C.はテクノロジーを使って、「創造力」を仕事にする学校”として、多くの人々に喜んでもらえる、感動してもらえるものづくりができる人材の育成を実践している。	業界との意見交換やヒアリングから、カリキュラムの見直しや講師の招聘などを実施している。また企業プロジェクトを通して技術・知識の他、プロとして必要な心構え、創造力、コミュニケーション力、チームワーク、ホスピタリティマインドを身に付けさせることに努めている。	3	・企業プロジェクトで成果は出ているが、他の学生や下級生へ継承できていない。共有する方法を検討する必要あり。 ・知財の共有と効果的な活用を、更に進めることを期待する。
2 学校運営	2-1 運営方針は定められているか	3	運営方針は滋慶学園グループの示す、毎年の長期・中期・短期展望を基に、事業計画を毎年作成している。	事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決議を受け、承認を得ている。	3	・学生や職員を見ていて、しっかりした運営ができていていると感じる。
	2-2 事業計画は定められているか	3	事業計画においては、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取り組み、職務分掌、各種会議及び研修等々について明確に明記されている。運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点に立って行っている。	事業計画書は、広報・教務・就職・総務と、学校におけるすべての部署について考えられ、また、すべての部署が同じ方針・考え方を理解するように努めている。	2	・年度の事業計画を、前もって開示してほしい。特にシステム導入についての情報を、早めにいただきたい。
	2-3 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	3	事業計画書の組織図には学校に係わる人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。	学校全体の運営、あるいは各部署の運営が正しく行われるために、様々な研修や会議が設けられ、この研修、会議を通して、個人個人の目標設定、及び業務への落とし込みを行っている。	3	・講師確保が難しいという状況は把握しているが、開講したい授業内容が確立しても講師が見つからないという事の無いよう、企業連携などの体制を構築してほしいと思う。 ・少ない人数でも困難にならないための、効率的な作業への改善を図ってきたい。
	2-4 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	3	滋慶学園グループが定める人事制度により処遇されている。	数字達成による成果だけで評価するのではなく業務の過程も評価されている。	3	・非常勤講師は最先端の学びを提供できるというメリットがある反面、多くの講師を集めなければいけないので大変だと思う。
	2-5 意思決定システムは確立されているか	3	意思決定システムは内容により会議等のプロセス、そこにおける決裁者、最終決裁者も事業計画に明記し、確立されている。	定期的なミーティング、会議、教育部会、各種委員会などを的確に実施している。	3	・定期的に実施されているようなので、問題なし。
	2-6 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	滋慶学園グループではDX委員を各校より選出し、定期的なミーティングを実施しており、デジタルトランスフォーメーションを駆使して業務の効率化を図っている。	出席管理システムにおいては、学生個人の面談記録、個人情報、出席状況などを一元管理することで、教務チーム全体で学生対応が出来るように努めている。日々の出席管理の効率化が図られ、学生対応の向上が図られている。	2	・学生の授業での様子や成績について、担当の授業以外の科目について部分的にでも共有してほしい。 ・DX導入については、東京だけではなく全国を見て上手く活用できるよう、考えていってほしい。 ・プロジェクトの成功事例を共有できるシステムを構築してほしい。

3 教育活動	3-1 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	3	職業人教育は常に業界と密接な関連を持たなければ、教育目標、教育する人材像は正しく方向づけられないと考えており、業界の動向を常にキャッチし、その変化に対応して養成目的や教育目標の見直しを毎年実施している。	本校の講師である業界で現役で働くクリエイター・エンジニアの意見はもちろん、学生の就職先の企業からもヒアリングをし、常に見直しを行っている。	3	・企業プロジェクトは、学生が社会に出た時、イノベティブになるための重要なプロセスそのものであると言える。
	3-2 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	3	「学生便覧」に「学年/学期到達目標」を記載し、各専攻ごとに4年制は8セメスター、3年制は6セメスターに分類し、教育到達レベルを明確化している。	3-1の見直しをもとに、「学生便覧」は毎年更新し、業界に適した人材を作り上げるための教育到達レベルを定義している。	3	・高学年次の指導方針が明確になっていない。個々の目標に応じて対応しているというのは承知しているが、明確に可視化できるものがあると良いと思う。
	3-3 カリキュラムは体系的に編成されているか	3	教育目標達成のためのカリキュラムは、入学から卒業まで、体系的に編成されているが、全国の姉妹校が集まる教育部会等で業界の情報を集約し研究、見直し等を行っている。	本校の教育の柱である「産学連携教育」により、即戦力としての実践力、技術・知識、ビジネスマインド等を身につけている。産学連携の柱となる「企業プロジェクト」では、商品化を前提としたプロジェクトに取り組み、仕事を実践する力を身につける。今年度はインテル、マイクロソフト、セガなど国内外を代表する企業から課題提供していただいている。	3	・主体性、実践力、問題発見力、発信力等が、企業プロジェクトと学科のカリキュラムで共通した授業形態の中で、どのように卒業時までに身につけていくのか、産学連携で協力体制は撮れているが、可視化できるものがあると尚良いと思う。
	3-4 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	3	毎年、教員で見直しを行っており、適正な位置づけを行っている。	学科長を中心に、業界や講師にヒアリングを行い、科目の見直しを毎年12月に行っている。	3	・企業プロジェクトのプロセスから学び、得られるものが大きい。それらの経験を学生時代にしておくことで、社会に出た後それぞれの企業で、なくてはならない新しい価値を創造することになるのではないかとと思われる。カリキュラムは定期的に見直され、適正な時期に実施されている。
	3-5 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	3	カリキュラムは学科に関わるもののみならず、社会的・職業的自立を目指し、業界・企業の協力を得て「キャリア教育」の視点に立ったものになっている。	キャリア教育の一環として行なわれる、入学前の自己発見→入学後の自己変革→卒業後の自己確立という、自己3段階教育の実践を行っている。	3	・マトリックス表などで一人一人の成長を定量化し、学生一人ひとりのキャリア発達を促すことを特色としているというようなものがあればと思われる。
	3-6 授業評価の実施・評価体制はあるか	3	1年に2回(前期末、後期末)に学生に授業アンケートを実施し、その内容を把握し教員で全体評価を行っている。	授業アンケートの内容は、授業の内容、指導態度、人間教育(挨拶や掃除)、先生の言動、学習効果などの項目がある。	2	・アンケート結果のフィードバックを、講師だけではなく学生にもしたほうが良いのではないかと。 ・講師へのアンケート結果のフィードバックは徹底してほしい。
	3-7 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3	講師契約は一年毎の更新としている。業界の変化に合わせて授業内容を変更した際は、対応できる講師を採用し授業を行っている。	新しく講師を採用するために、業界関係者、企業などに協力を要請し人材確保に力を入れている。	2	・慢性的な講師不足の改善を望む。 ・対面とオンラインのハイブリットや他校との連携など、改善を考える余地があるのではないかと。
	3-8 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	3	全体講師会、専門分野のみの分野別講師会などをそれぞれ年2回程度実施している。また授業後には教員と講師の打ち合わせや授業報告書の提出をお願いしており、コミュニケーションの強化に努めている。	全体講師会や分野別講師会では、講師の資質向上、授業改善等を目的とし、学生とのふれあい方や授業の実施方法に関しての議論を重ねている。	3	・以前より講師会・分科会を増やしていると思うが、もっと回数を増やしても良いと思う。 ・講師間でコミュニケーションの取れる機会がもっと欲しい。
	3-9 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	2	成績評価は出席率、授業態度、作品及びレポート、小テストなどで決定している。	出席率が66.7%以上をクリアし、成績評価が60点以上で合格となり単位認定される。A-Fの5段階評価となっている。	2	・講師の主観になってしまっている部分もあるので、目標を数値化してほしい。スタンダードを提示してほしい。
	3-10 資格取得の指導体制はあるか	3	資格取得を目的とする授業を開講している。	資格取得の一例として、MOS(Microsoft Office Specialist)162名取得、Microsoft Azure AI Fundamentals 73名取得、アソシエイト・ホスピタリティコーディネータ181名取得などがある。	3	・実力を身につける必要があるため、成績は出席点の比率を下げ、成果点の比率を上げるべき。
4 教育成果	4-1 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	3	就職では、「絶対就職」を標語に掲げ、就職希望者全員が就職達成できるよう一人ひとりにあったサポートを行っている。	合同企業説明会を年3回実施し、また単独の企業説明会も随時開催し、学生とマッチングしやすい環境を作っている。就職希望者による第一専門職の就職率は90%を超え、多くの学生が自分の希望する業界での就職をかなえている。また卒業後の転職についてもサポートしている。	2	・卒年次前から、就活として十分なポートフォリオ制作の意識付けが必要。
	4-2 資格取得率の向上が図られているか	3	3-10で述べた通り、資格取得の指導体制は万全である。ベンダー資格の一つの壁である高額な資格代金は、学校価格で学生に提供でき資格を受験しやすい環境になっている。また、学校内で資格受験できるよう試験環境も整っている。	Azure AI Fundamentals 資格は昨年よりも体制を整え、キャリア教育の時間を使用するなどして合格率アップにつなげている。基本情報技術者試験や応用情報技術者試験などの国家資格からベンダー資格の合格者も年々増加している。	3	・教務の先生方を中心に、資格取得向上に向けて学生への指導をしていただいているが、さらに学生が能動的に学習をする施策があれば共有したい。
	4-3 退学率の低減が図られているか	3	経済的困窮や精神疾患など専門家の協力が必要な場合もあるため、ファイナンシャルアドバイザーやカウンセラーに協力を得てサポートしている。	学校全体の退学率は5%を切っており、充分に退学率の低減が出来ていると思われる。	3	・5%を切っているのは素晴らしい。継続してほしい。
	4-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2	在校生の社会的な活躍および評価は常に把握が可能である。卒業生との交流は卒業時に同窓会組織への参加とSNSの登録を促している。	在校生のコンテストへの入賞、企業プロジェクトによる商品化は学校全体を通して評価の共有をしており、公式HPへの掲載や他学生の前での表彰などを実施している。卒業生に関しては、SNSなどを通して卒業後の情報を得ているが充分ではない。	3	・学内イベントや在校生の講評会に、卒業生が来てくれる習慣があるのは素晴らしい。その時に卒業生の近況を把握できていると思う。

5 学生支援	5-1 就職に関する体制は整備されているか	3	就職専門部署であるキャリアセンターを設置し、担任と連携を取りながら対応している。	キャリアセンターは求人開拓、学生の就職相談、斡旋、履歴書の書き方、面接対応、インターンシップ、業界アルバイト、ポートフォリオ(作品集)指導などを行っている。また、転職など卒業後サポートも行っている。	3	・留学生の就職支援を強化してほしい。
	5-2 学生相談に関する体制は整備されているか	3	担任制を取っており、個別に相談時間を設け、学習理解度や職業理解、就職活動、アルバイトや友人関係など学生生活などの不安にも寄り添っている。	担任はホームルームなどでグループワークの実践、友達作り、コミュニケーション力の強化、ホスピタリティマインドを身に付ける講座などを実践し、相談をしやすい環境作りやマインドの強化を図っている。	3	・学生の特質も事前に共有できているので、サポート出来ているのではないかと思う。
	5-3 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	2	学生の経済的側面については、相談窓口として事務局会計課を置き対応する制度がある。	事務局会計課にはファイナンシャルアドバイザーがおりサポートしている。	3	・適切に情報を管理して、支援されていると思う。
	5-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3	・健康管理については滋慶学園グループのクリニックである慶生会クリニックが担当し、在学中の健康管理を支援する制度がある。 ・精神的な問題に関してはチュードントサービスセンターを設置し在学中のメンタルケアを支援する体制を構築している。	・慶生会クリニックの協力のもと学生は年一回の健康診断を実施している。 ・チュードントサービスセンターには専門のカウンセラーが学生支援を行っている。	3	・精神のケアは、引き続き充実をお願いしたい。
	5-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか	2	学生の課外活動であるサークル活動・同好会は、校内の施設を使い活動ができるように支援している。	コロナ禍のため活動が出来ずに解散してしまったサークルもあり、現在活動しているのはesportsサークルのみである。	2	・学業だけでなく、課外活動も充実すると良いと思う。 ・近隣の地域コミュニティを利用してはどうか。
	5-6 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	3	学生寮も学園の専用の寮を整備しており、寮長と担任とが連携して学生を支援している。高田馬場周辺の賃貸情報も地域の不動産業者と連携し、提供・サポートしている。	学生寮はジケイ・スペース株式会社が管理運営しており、連携を取りながら支援している。	3	・困った時に相談しやすい環境作りが出来ていると思う。
	5-7 保護者と適切に連携しているか	3	学生が休むと電話やメールで保護者に連絡をしている。長期で欠席した場合は家庭訪問も行っている。また毎年個別の保護者面談も行っており、学生の情報交換を密に行っている。	特に心配な学生に関しては、学生状況の定期報告を保護者で行っている。	3	・学生の日々の細かい情報も把握されており、保護者の方とも連携と取れていると感じる。
	5-8 卒業生への支援体制はあるか	3	卒業生に対して再就職や転職サポートを行う体制がある。	卒業後もキャリアセンターや担任に相談があった際は、在校生と分け隔てなく相談を受けサポートを行っている。	3	・在学中に学んだ事の学び直しや、最新の教育など卒業後の新たな学びの提供があっても良いのでは？(リカレント教育)
6 教育環境	6-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2	・教育環境(施設・設備、機材、ソフトウェア等)の整備は専門のサポート業者に委託し対応している。 ・校舎内を清潔に保つために週一度点検日を設け、不備はないか確認している。	・サポート業者は常駐しており、校舎内のコンピュータメンテナンスを対応しているが、ネットワークなど一部不安定なものがある。 ・教職員に担当フロアを割り当て点検している。	2	・学生の昼食を食べるスペースがない。要改善。 ・機材とソフトウェアの改善を、引き続きお願いしたい。 ・共有ドライブがあると良い。 ・CG系は2モニターが望ましい。
	6-2 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	・学外実習や特別講義は積極的に取り組んでいる。 ・卒業年度生はインターンシップに参加し就職活動に活かせる制度がある。 ・アメリカで企業訪問や特別講義を受ける海外実学研修の制度がある。	・特別講義はIT企業、ゲーム会社、イラストレーター、アニメーターなど43回実施した。 ・インターンシップは56名が行った。 ・海外実学研修は例年約85%の学生が参加しているが、新型コロナウイルス感染症の影響のため実施できていない。	3	・海外実学研修に、今年も行けることを願う。 ・素晴らしい取り組みだと思う。
	6-3 防災に対する体制は整備されているか	3	・ジケイスペースの協力を得て防災訓練(火災、地震などを想定)を年一回実施している。 ・マニュアルを用意し防災体制を構築している。	・防災訓練は5月に実施した。またホームルーム内で学生に避難経路の確認や消火器の使用方法などについて説明を行っている。 ・マニュアルは防災担当者がジケイスペースに相談し見直しを行っている。	3	・昼食スペースが不足しているのは、防災上も問題になるのではないか。

7 学生の募集と受け入れ	7-1 学生募集活動は、適正に行われているか	3	東京都専修学校各種学校連合会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(AO 入学等も)を毎年、遵守している。	募集ルールの遵守及び誇大広告の排除など十分に配慮している。	3	・新生生の学習内容についての希望アンケートなどがあれば、カリキュラムとの齟齬が出ないように共有してほしい。
	7-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3	パンフレット、入学案内、ダイレクトメール、体験授業、学校説明会、ホームページ、SNS等を通して教育内容や教育成果を正しく伝えるように、広報担当者、教員、キャリアセンターの教職員がチェックする体制を構築している。	入学後や仕事のイメージを明確にしてもらうために、体験入学や学校説明会への複数参加を促し、職業理解と学校選びが十分に検討できるようにしている。	3	・卒業する時に、ここまで成長できるということを伝えられると良い。 ・入学前の個々の目標、夢の確認の充実を求める。モラトリアムな学生への対応をお願いしたい。
	7-3 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3	・出願方法、必要書類、出願受付日、選考日などについては、学生募集要項に明示し実施している。 ・選考は面接試験と書類(入学願書、AOエントリーシート、高校調査書など)で行い、面接担当者、事務局長のチェックのうえ可否の判定を行っている。 ・留学生に関しては上記に加えて、日本語能力を確認するテストを実施している。	・面接担当者は入学願書またはAOエントリーシートに記入された作文をもとに質問を行っている。 ・選考基準は面接と書類で「将来の夢」や「目的意識」の確認を行い可否判定している。 ・留学生の日本語テストは日本語能力試験2級レベルの内容で80点を合格としている。	3	・エントリーシートに記入された作文も共有してほしい。どのようなことを求めているのかを把握したい。 ・留学生の入学前の日本語教育をもっと充実させてほしい。 ・日本語での会話に難のある留学生がいる。どこまでを許容するかの指針が必要だと感じる。
	7-4 学納金は妥当なものとなっているか	3	学納金は授業料、施設設備など学内の機材や環境、教科書及び教材、学校行事、資格検定などにかかる費用を算出し、滋慶学園本部の了承のもと決定している。	・在学中の授業料及び諸経費などの学納金については学生募集要項に明記している。 ・おおよそ定員通りに入学しているので、学納金は妥当なものと思われる。	3	・収支のバランスの上でのことなので、そこを詳しく知りたい。
8 財務	8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	毎年、次年度(短期的)と5か年(中長期的)の2つの視点で事業計画を作成し収支予算も立てており、財務基盤を安定させる体制が構築されている。	・短期的な予算編成は当年度の実績を基に次年度に予定している計画を加味して行っている。 ・中長期的な予算編成は主として将来の計画を視野に入れた上で、業界の情勢を読み取りながら行っている。	3	
	8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3	健全な学校運営のため、在校生数、広報及び就職計画を鑑みながら収支計画を作成し、それを学校、学園本部、理事会、評議員会と複数の目でチェックしており実行している。	・短期的な予算に関しては現実のものと乖離した場合は修正予算を組み、中長期的な予算においては毎年編成し直している。 ・学校法人コミュニケーションアートの理事会は9名の役員(理事7名、監事2名)、評議員会は15名の評議員で組織されている。	3	・内容が分かるよう、収支の見える化をしてほしい。
	8-3 財務について会計監査が適正に行われているか	3	会計監査は、法人及び学校の利害関係者に対して、法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために、第三者による監査人が法人とは独立し計算書類が適切かどうかを監査している。	四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者が予算と実績が乖離しているようであれば修正予算を編成し、理事会、評議員会の承認を得ている。	3	
	8-4 財務情報公開の体制整備はできているか	3	「財務情報公開規程」及び情報公開マニュアルを作成し財務情報公開の体制を整えており、毎年公式HPで公開している。	作成した決算書、事業報告書については、情報公開の対象となり公式HPで閲覧出来る。	3	・情報公開している点を評価する。
9 法令等の遵守	9-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	・滋慶学園グループ全体の方針として法令遵守を掲げ、その方針を理解し実行に努めている。 ・法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断している。	・コンプライアンス委員会は委員長と委員2名で構成している。	3	
	9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3	個人情報保護に関しては、教職員は一般社団法人日本プライバシー認証機構(JPAC)主催の研修を受け、個人情報取扱従事者資格を取得している。	個人情報管理のための組織体制をグループ内に設け、個人情報管理システムを構築し対応にあっている。	3	・情報公開している点を評価する。
	9-3 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3	学校関係者評価委員会を開催し、自己点検、自己評価をもとに様々な意見を伺う体制を構築している。	・学校関係者評価委員会の委員は業界関係者、卒業生、近隣の方、高等学校関係者、保護者で組織されている。 ・委員から出た意見をもとに改善に取り組んでいる。	3	
	9-4 自己点検・自己評価結果を公開しているか	3	学校の公式HPに情報公開しており、自由に閲覧することができる。	HPの情報公開は年に1回更新している。	3	
10 社会貢献	10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	2	学校の施設設備を使った職業理解のための体験授業や、講師による出張授業など十分な体制が整っている。	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、近年では充分に出来ていない。以前は小中学校の修学旅行や学校見学の受け入れ、高等学校へ出向いて職業理解のための体験授業や部活動支援、海外の大学や専門学校からの施設見学など行っている。	3	・この活動は、ホームページなどで積極的に広報して良いと思う。
	10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2	ボランティア活動は積極的に奨励している。	年度末に学生有志による近隣の清掃活動を行っている。	2	・企業へのボランティアが何か出来れば良いのではないかと。ぜひ企業に行ってほしい。 ・ボランティア企画案を、学生や講師からも提案してもらおうと思う。